

7  
JULY

- 1 [土] トリオ カツエ プラットワンコインコンサート  
Trio Katze『夏の風にそよぐ想い出のメロディ』◎PLAT アートスペース
- 2 [日] 第51回東三民踊まつり◎PLAT主ホール
- 8 [土]—9 [日] 志多ら全国ツアー『息吹〜IBUKI〜』豊橋公演◎PLAT主ホール
- 12 [水]—14 [金] 豊橋演劇鑑賞会 第261回例会 劇団民藝『蠟燭の灯、太陽の光』◎PLAT主ホール
- 17 [月・祝] プラットワンコインコンサート  
高柳鞠子・三浦真理子『音の海を愉しむひととき』◎PLAT アートスペース
- 19 [水] デューロ経営者アカデミー講演会  
「命より大切な目的と目標を達成するということ」◎PLAT アートスペース
- 22 [土] クリステールのサマーコンサート◎PLAT アートスペース
- 23 [日] ベリーダンスショー「海の話」◎PLAT主ホール
- 26 [水]—29 [土] 第70回 中部日本高等学校演劇大会 愛知県大会三河地区の部◎PLAT主ホール
- 29 [土]—30 [日] PLAT小劇場シリーズ  
風琴工房『Penalty killing remix version』◎PLAT アートスペース

8  
AUGUST

- 3 [木] がましん経済講演会◎PLAT アートスペース
- 7 [月] 豊橋演劇鑑賞会 特別例会『黒い雨』◎PLAT主ホール
- 7 [月] 碓井雅史 JAZZコンサート Midnight in Montreal & Bar◎PLAT アートスペース
- 8 [火] 第35回西田メディカルクリニック講演会  
「胃カメラ検診とは〜胃カメラは笑いで楽になる?〜」◎PLAT アートスペース
- 9 [水] パレエスタジオブリエ 第5回おさらい会 ~ My Sweet Variation ~◎PLAT主ホール
- 11 [金・祝] 人形浄瑠璃 文楽『本朝廿四孝』十種香の段、奥庭狐火の段◎PLAT主ホール
- 11 [金・祝] ドレミ〜な♪ピアノ教室 発表会◎PLAT アートスペース
- 20 [日] 合唱団 Sakura Cantabile 第8回ファミリーコンサート  
コーラスミュージカル『That's Neverland』◎PLAT主ホール
- 23 [水] 第16回小中学生による芸能フェスティバル◎PLAT主ホール
- 25 [金] 親子のためのファミリーミュージカル『ピノキオ〜または白雪姫の悲劇〜』◎PLAT主ホール
- 25 [金] CBDC PARTY 2017◎PLAT アートスペース
- 27 [日] ワークショップ縁日 2017◎PLAT主ホール・アートスペースほか
- 31 [木] ムジカ ピアット プラットワンコインコンサート  
Musica Piatto『おとぎの世界へようこそ』◎PLAT アートスペース

表紙/市川海老蔵 古典への誘い「男伊達花廊」  
撮影:安井信介  
企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団  
編集・デザイン/味岡伸太郎+有限公司STAFF  
平成29年6月発行 26号[隔月発行]



公益財団法人  
豊橋文化振興財団情報誌  
2017年7月〜8月  
vol. 26



TOYOHASHI  
ARTS  
THEATRE  
PLAT

CONTENTS

表紙 市川海老蔵 古典への誘い「男伊達花廊」 2

INTERVIEW:1  
風琴工房「Penalty killing remix version」  
詩森ろばの挑戦。 4

INTERVIEW:2  
人形浄瑠璃 文楽「本朝廿四孝」  
桐竹勘十郎、文楽を語る。 6

INTERVIEW:3  
プラット  
親子わくわく  
プログラム 2017  
棚川寛子  
「モモ」の時間 10

INTERVIEW:4  
マームとジブシー  
「10th Anniversary Tour」  
藤田貴大の十年。 12

INFORMATION  
PLAT  
主催公演情報 14

FOYER  
プラット  
小劇場シリーズに  
ついて  
ESSAY  
平田 満の  
ちよこつと エッセイ  
「ワークショップ」 15

SUPPORT  
TICKET  
CENTER 16

PLAT  
CALENDAR





聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー

## 詩森ろばの挑戦。

モデルとなったチームへの継続取材による  
新たなエピソードも満載し、演劇の限界にまたもや挑む。

矢作—まず始めに、風琴工房とはどのような劇団ですか。  
詩森—風琴工房はもう24年目、四半世紀やっています。ベテランだけどそこに落ち着かず、未だに新しいものにチャレンジし続けているイメージです。プロデューサー制ですが、毎回過半数はレギュラーの人が出ていて、俳優と演出家が緊張感を持った関係で継続的な作業をしていくことを考えてやっています。  
矢作—読売や紀伊国屋の演劇賞など、評価が高くなっていますね。  
詩森—「国語の時間」の読売演劇賞受賞が、注目されるきっかけにはなったと思うのですが、震災を機に作風が大きく変わったことが転換点になった気がしています。社会全体の心が傷ついている状況のなか、どんな題材を扱っても、演劇表現として面白くかつわかりやすいということを意識するようになりました。  
矢作—その究極が「Penalty Killing」。  
エンターテインメント性を特に追求したのですか。  
詩森—いろんな意味で後にも先にもないだろうという作品です。日光アイスバックスという実在のチームをモデルにしているのですが、地域に密着していること、経済的に逼迫していたことなどが、私のこれまでやってきた作品と地続きのテーマだと飛びついたので。でも、取材で霧降アイスアリーナに通ううちにアイスホッケーがスポーツとして面白く、想定外に夢中になってしまったのと、アリーナとそこに集うひとたちの暖かさ、優しさにわたし自身が助けてもらったことなどがあり、どちらも伝えたい、と奮闘するうちに、チャレンジというか、得体の知れないところに突き進んでいき、ああいう作品になった感じです。俳優は最初、ロッカールームの話だと思っていました。「いやいや全員選手役で試合シーンの連続です。」と言っても、始まるまで皆信じてなかった。でも私はずーっと、どうやれば氷ではない舞台でアイスホッケーの試合がやれるかなと考えつつつけていました。そのひとつの答えを見ていただけたと思います。初演のときは、俳優たちにアイスホッケーに見えませんかと言いました。内心では無茶言うなって思ってた

思うんですが、共に戦い、最後にはホッケーファンの人のみならず、選手までもが「アイスホッケーに見えた」と言ってくれる舞台を創りあげることができた。それが自信だし誇りです。  
矢作—監督とチームの柱となる選手の葛藤にフォーカスしたのは。  
詩森—実在のモデルがあったのです。その選手は10年にひとりと言われた名選手でしたが、所属チームが廃部になり、最後の4年間高校の同級生が監督をしている日本で最弱のチームにいったのです。そのまま書いても十分おもしろい話でしたが、それだけではわたしがやる意味がない、と思って、チームの現状を取材し、いろんな年代をミックスして物語にしていきました。  
矢作—アイスホッケーのどこを面白と思ったのですか。  
詩森—スピードとフィジカルのぶつかり合いで、一緒に観に行ったら俳優も皆一瞬で「これは面白いね」となる。でも取材するうちに、もっと奥深いものがある、と気づきました。例えば、選手が氷に継続して乗れる時間が1分程度なんです。激しすぎてそれ以上は肉体が耐えられない。なので、タイムアウトを取らずにどんどん交代していくんです。つまり、どんな名選手であっても、氷に乗っている時間より乗っていない時間のほうが長い。自分の届かないところで勝負が決まっていくことも多いんです。また、ペナルティを取られると、たった5人のフィールド

プレーヤーのうち、2人までが欠けて、5対3で戦うこともあるんです。チームの人数が不均衡になるスポーツって、あまり聞いたことがないですよね。その時間をプレイヤーの多いチームから見ると「パワープレイ」と言い、少ないチームから見ると「ペナルティキリング」というんですね。試合を進めるシステムのなかに、勝ち負けだけではなく、陰影があって、魅せられました。  
矢作—今回リミックスバージョンなのは、どういうところから。  
詩森—初演のときにはホッケーそのものを知ることで手一杯で、書ききれなかった部分がある。追加取材として霧降に何度も通ううち、ファンの人から「この選手も出してほしい」なんていう、要望などもお聞きして取り入れました。話の骨格は変わらないのですが、ディテールがすごく変わる。新作じゃないけど、単なる再演でもない。だからリミックスバージョンです。  
矢作—詩森さんが、やりたいと思う役者さんはどういう人ですか。  
詩森—モデルになったアイスバックスの元監督の岩本さんに「好きな選手はどんな選手ですか?」と聞くと、「フォア・ザ・チームを貫ける選手、それから休まない選手」とおっしゃるのです。なんだかあかるな、と思って。わたしの好きな俳優は、演劇のため身を投げ出せる人。「役」という他者を大切にしてくれる人が好き。繰り返しいっしょにやっている俳優たちはそこに関して

は超一流という自信があります。でもそういう人たちに日が当たりづらい現状もある。スター俳優を呼べばお客様が呼べるのはわかっているけど、このメンバーでいいものを作りたいし、このメンバーで興行的にも成功したい。だからこそ、お客様に絶対損はさせませんという気持ちで作っています。  
矢作—この作品に限らず 地方公演はやっていますか。  
詩森—やっています。ただ東京公演と連動して地域での公演を組めたのは、はじめてくらいで、ものすごく興奮してるし、楽しみです。演劇に力を入れていて、プログラムも自分の目で確かめて組んでいる豊橋の劇場に呼んでもらうというのは嬉しくて名誉なことですね。  
東京での初演では、客席にアイスホッケーのオレンジのユニフォームがいっぱい、選手入場的时候には自然に拍手が巻き起こり、メガホンを持ってきて鳴らしてくれた人もいた。演劇の大冒険みたいなお芝居なんです。でもドラマはしっかり作って、物語としての深みも見せたい。そのうえで、あの初演のときの熱量溢れるお芝居と、興奮に満ちた客席を、もっともっとパワーアップして、「演劇はこんなことができるんだよ」というワクワクの最上級を手渡せたらいいなと思っています。  
矢作— PLAT にどんなスケートリンクが出現するのか楽しみです。



詩森ろば [しもりろば] / 宮城県仙台市生まれ。1993年、劇団風琴工房旗揚げ。以後すべての脚本と演出を担当。時に詩のようなと評されるうつくしい言葉の扱いに定評があったが、近年では対話を中心としたリアルな作風にシフトチェンジ。綿密な取材をもとに、独特の雰囲気あふれる演出により現実とリンクした作品を作り始めている。2003年『紅き深爪』で劇作家協会新人戯曲賞最終候補。2004年から演劇の地域交流のあたらしい可能性を視野においた京都でのフェスティバル TOKYOSCAPE を立ち上げ、フェスティバルディレクターを務める。2011年『葬送の教室』にて鶴屋南北戯曲賞最終候補。2013年演出作品『国語の時間』(作 小里清)にて読売演劇大賞優秀作品賞受賞。2016年『残花—1945 くら隊 園井恵子—』『hedge -insider2-』にて紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。『hedge -insider2-』にて鶴屋南北戯曲賞最終候補。

7月29日[土]・30日[日]14:30開演  
脚本・演出＝詩森ろば  
出演＝栗野史浩、森下亮、筒井俊作ほか  
会場＝PLAT アートスペース

それは演劇というより試合。俳優というより選手。  
事件とまで言われた男子アイスホッケー演劇。

PLAT 小劇場シリーズ

# 「Penalty killing remix version」

風琴工房





とんでん返しの続くスリルに満ちた時代物を、人形でしか出来ないダイナミックな表現で魅せます。

# 桐竹勘十郎、文楽を語る。

聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場PLATシニアプロデューサー

中島——文楽の楽しみ方とは  
どのような見方でしょうか。

桐竹——見る方によってそれぞれ違いますので、なかなかこちらからは言いにくいですが、オペラやミュージカルみたいな音楽劇なので、浄瑠璃義太夫節という音楽によって人形が演劇をするものやと思って、音楽も楽しみ人形の動きも楽しんでいただけたらうれしいです。

中島——よく知られるのは心中ものですが、『本朝廿四孝』はどのようなお芝居ですか。

桐竹——これも時代物の名作です。話が入り組んでいて全体を通すとちょっとわかりにくいのですが、それから離れて芝居の場面だけ見ていただくと、これはこれで面白いと思います。

250年ほど昔の近松半二さんというのは、入り組んでいる芝居というか、作劇のやり方として「実はなんとか」というお芝居をよく作ってはるのです。

中島——『廿四孝』は、唐土の親孝行のお話ですが、今回の芝居も親孝行の一つですか。

桐竹——中国古来の親孝行の話を集めた話の日本版ですが、全然違うのです。三段目の山本勘助と直江山城守は、話の中では兄弟ですが、それに雪の中でお母さんが箭を食べたいから箭を掘ってこいという『廿四孝』の箭掘りの故実を入れ込んでいるお芝居です。

中島——この話で人形を操っていて楽しいのはどの場面ですか。

桐竹——やりどころはいろいろあります。『十種香』は今までは師匠がずっとやっておられました。『奥庭』はもう何回かやらせていただいていたのですが、今年の正月にこの公演で初めて『十種香』から『奥庭』までをやらせていただきました。

中島——心理的なシーンも多く難しい話だなと思ったのですが。

桐竹——勝頼と八重垣姫の場面が前と後で全然違うの

です。ただ勝頼への思い入れは一緒なのですよ。だけど全然別人に見える。

中島——狐は『義経千本桜』にも出てくるし、文楽では他にも出てくるのですか。

桐竹——狐が出てくるお芝居は結構あります。『芦屋道満大内鑑』でも葛の葉に化けています。新作もあります。『雪狐々姿湖』これは有吉佐和子さん。獵師に助けられた狐が獵師と結婚し、弟が会いに来て撃たれてしまうという話です。

自分でも狐の芝居を作っています。

中島——実は来年、九つの尾を持つ狐の物語を新作のミュージカルでやるのです。

桐竹——文楽でも、いわゆる九尾の狐のところは3年前に41年ぶりに国立文楽劇場でやりました。『玉藻前』の違う段はよく出るのですが、「九尾の狐」はなかなか出ないのです。

中島——浄瑠璃と三味線と人形遣いの方々とのマッチングはどのようにされるのですか。

桐竹——その時にならないとわからないのです。先輩方の録音を聞いて、そのまま役に立つかと言うと、その方の解釈で語りはりますから、なかなかそれは厳しい。しかし、べったり合わせてしまうとダメなのです。だから、ちょっと外れているくらいが面白いと僕は思います。

中島——振りは昔から伝わっていると思うのですが、解釈で変えていかれるのですか。

桐竹——太夫は、これはもう300年以上前のものがそのまま本に載っています。時間的にカットすることはありますが勝手に触ることはできません。三味線も曲は自分で変えられない。人形の場合も大きくは変えられませんが、芝居に影響のない動き、大まかな部分はその人の工夫でまだまだ自分ができるなと思えば変えてもよいのです。そのへんで遣う人によって違う味が出てきます。

中島——勘十郎さんに他の二人も

桐竹勘十郎[きりたけ・かんじゅうろう] / 1953年大阪生まれ。父は二世桐竹勘十郎。68年、14歳の時に吉田襄助に師事して吉田襄太郎を名乗る。2003年、三世桐竹勘十郎を襲名。86年咲くやこの花賞、88年大阪府民劇場賞奨励賞、99年松尾芸能賞優秀賞、08年芸能選奨文部科学大臣賞、紫綬褒章、09年日本芸術院賞を受賞。13年国立劇場文楽賞文楽特別賞受賞。15年三代目桐竹勘十郎を襲名。16年第57回毎日芸術賞(演劇・邦舞・演劇部門)受賞。

## INTERVIEW:2

合わせてくるのですよね。

桐竹——もちろん、もちろん。毎日違う振りをしてても他の二人は合わせてくれます。別に決めた振りを毎日やっているわけやない。そのために長い時間の修業が必要なのです。足をやるだけでも、10年20年かかります。最初は足をやったり舞台のいろんな雑用をしたりしながらお芝居を覚えていきます。

中島——人形の着物のしつらえはどのようにされるのでしょうか。

桐竹——着物の状態で置いてあるので、着物が届いて着付けをしてこしらえていくのは主遣いです。着物も帯も多少好みによって変える方もいますが、大体古典のものは決まっています。着付けは各役の人がやるので、人によって全然違います。そして、千秋楽になるとまたバラバラにしてしまいます。

中島——いろんな役を演じたと思いますが、好きな演目はおありですか。

桐竹——好きな演目はいろいろありますが、どれか一つと言われると困ります。男も女も立ち役も女形も好きで、まだまだやったことない役も多くこれからです。僕に役がつきだしたのはやっと50代です。それまでは丁稚や女中とか腰元とかそういう役ばかりです。役をもらうのはなかなか時間がかかるので、やっとこの頃主役をいただけるようになったから初役のものの方が多いいです。

中島——人形は主役になればなるほど重いですよね。若いときは力があるのにと思いますが。

桐竹——それはほんとにあるのです。初めてやらせてもらう時期がもうちょっと若かったらなというものもありますね。足腰を鍛えておかないと大変です。

中島——豊橋では、皆さんほんとに待ちに待った公演で、楽しみにしています。

桐竹——待っていただいているのはありがたい話です。とりあえず今回1回目を頑張って努めたいと思います。

## 人形浄瑠璃 文楽

# 「本朝廿四孝」

ほんちょうにじゅうしこう

## 十種香の段・奥庭狐火の段

出演=竹本津嗣太夫、鶴澤清介、桐竹勘十郎 他

8月11日[金・祝]11:00 / 16:00開演

会場=PLAT 主ホール



# プラット 親子あわわわプログラム 2017

今年の夏は子どもから大人まで楽しめるプログラムがたくさん。  
家族と、お友だちと、みんなでプラットへ出かけよう。

## スタンプラリーもあるよ。

各会場でスタンプを集めると景品がもらえます。  
(詳細はプラットチケットセンターへ)

## [写真] ワークショップ縁日

演出・音楽

## 棚川寛子「モモ」の時間

聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場PLATシニアプロデューサー

中島——棚川さんにとって『モモ』は  
どのような存在ですか。

棚川——実は『モモ』はずっと避けてきました。3、40分には収まらないし、独特な世界観と風刺の効いた社会への問題提起など、『モモ』は取り上げているものが壮大で難しすぎる印象でした。

中島——最終的に出演者はどのような  
構成になったのですか。

棚川——エピソードが長く、どこかを削らないとまとまらないので、「モモ」と「灰色の男」に焦点をあてて、役は、モモ、マイスター・ホラ、亀のカシオペイヤ、灰色の男たちと、大きく分けると4つになります。モモは人形で文楽のように二人で動かし、その内の一人がセリフを担当

します。マイスター・ホラは一人ですが、灰色の男たちはいっぱい出てきます。カシオペイヤは、亀の帽子を被って演じています(笑)

中島——元々は奪われた時間を取り戻すこと、今回の『モモ』は棚川さんならではの『モモ』ですか。

棚川——半分半分です。「時は金なり」と言いますが、創作しているこの時間が、まさに豊かな時間です。世の中からは無駄な時間かもしれないけど、市民のみなさんは、仕事で疲れた体で創作の現場にやってくる、演奏して「はーあ」で「もう10時だ」の毎日です。でも「あ、あの時間楽しかったね」と、後になって豊かに返ってくる。

『モモ』の経済システムがどうということについても最初は考えたのですが、だんだんと今ここに居る人たちと

親子で一緒に楽しめる音楽劇

## プラット音楽隊 「モモ」2017

世界中で愛される児童文学「モモ」が音楽劇に。  
モモの時間を取り戻す冒険が始まります。



8月5日[土]・6日[日] / 会場=こども未来館ここにて  
原作=ミヒヤエル・エンデ / 演出・音楽=棚川寛子  
出演=プラット音楽隊

親子のためのファミリーミュージカル

## 「ピノキオ~または 白雪姫の悲劇~」

世界中すべての子どもたちへ贈る、  
楽しさがぎゅぎゅつまったミュージカルです。

8月25日[金]14:00開演 / 会場=PLAT主ホール  
原作=カルロ・コローディ / 作曲・音楽監督=深沢桂子  
演出・脚色=宮本亜門 / 共同演出・振付=福島桂子  
美術=下田昌克、大島広子  
出演=小此木まり、池田有希子ほか

世界中で愛されるおなじみの「ピノキオ」の物語を元に、大勢の人の好奇心や想像力を刺激し、人間の創造力は無限大だということを感じてもらいたいという演出家・宮本亜門のアイデアがいっぱい詰まっています。きつね、猫、こおろぎのほか、白雪姫、カメから魔王まで、あらゆるおとぎ話のキャラクターが続々と現れるととても不思議なワンダーランド。ピノキオが苦難を乗り越えて人間の少年へと成長していくまでのお話が、色とりどりのオリジナル楽曲に乗せてつづられていくファンタジックなミュージカルです。ピノキオの冒険とともに人間の暖かさ、素晴らしさを感じることができるはずです。

向き合っているこの時間が豊かなんだということになってきました。

中島——それは、楽しい時間を  
繋げてあげたという感じですね。

棚川——基本的に出演している役者は自分の出番がない時は演奏にまわるんですが、最初は創作の仕方がわからなかったと思うのですよ、1×8(ワンエイト)のカウントに音を入れていく。でも「え、ワンエイト?」「何、それ」。わからないままに「1、2、3、4」とカウントが始まり、その上突然「はい、これ叩いて」でキョトンだったでしょうね。

昨年度の「市民と創造する演劇『夏の夜の夢』」で面識があった人はまだしも、初参加の方は、最初ついで

これなかったと思うのです。それでも誰ひとり脱落せず、どこに住んで、なんの仕事をしているかもわからない他者と、あんなに小さなところで楽器を並べて、なにがいいのか、なにがおもしろいのか。だけど、どうも来ないし進まない。暗黙の内に「誰か一人欠けるとどうもこれは成り立たないぞ」という、ある種のコミュニティが共有されて、なんとなく役割が決まり、みんなが協力する。それは、リーダーがしっかりしていないことが、ポイントです(笑)。そうするとなんとかしなきゃとみんなが思う。

例えば曲というツールがあって、1日休むと「曲ができあがってる」「どうする」「これやばいぞ」自分のパートがぬけると曲が成立しない。「休んだらまずいな」と思うようになっていった。みんなで「発表する」という目標があ



PLAT 夏休み子どもワークショップ

## 「ワークショップ 緑日2017」

参加型の楽しい企画が盛りだくさん。  
夏休み最後の日は、劇場で遊ぼう。

8月27日[日]10:00～15:00 予定  
会場＝PLAT 創造活動室Aほか  
申込＝7月下旬より予定

プラットの「ワークショップ緑日」は大人にも子どもにも学びのある一挙両得な企画です。

ファミリーテーター養成講座で学んだ大人たちが、どんなことで遊ぼうか、どんなことを学んでもらおうかと必死に考えた結果がこの「ワークショップ緑日」の1日に凝縮されています。

参加する子どもたちに特別な準備はいりません。劇場にやってくれば何か新しい遊びが待っています。みんなで一緒に遊んだり1人で一生懸命考えたり、挑戦していくことの喜びをこの「ワークショップ緑日」では得ることができると思います。

ファミリーテーター養成講座に参加した大人たちも挑戦

です。子どもたちの反応は正直で、どれだけ準備しても遊ぶ子どもたちを見ていると何が良かったのか、どんなところが面白くないのかが分かってしまう。

遊びは一見何の得にもなりません。何も生み出さないように見えます。しかし人は遊びの中で何かを学んでいきます。遊びの中でしか学べないことがたくさんあるのです。一見無駄に見えるような子どもたちの遊びの時間をぜひ親御さんも一緒に遊んでみてください。

[柏木陽(演劇百貨店代表・演劇家)]

ブラットワンコインコンサート

## 「おとぎの世界へようこそ」

0歳から楽しめるコンサート。  
ディズニーやオペラの中の曲を演奏します。  
8月31日[木]11:00開演/15:00開演  
会場＝PLAT アートスペース  
出演＝Musica Piatto[ムジカピアット]



新国立劇場 こどものためのバレエ劇場

## 「しらゆき姫」

家族で楽しめるクラシックバレエ公演です。  
9月16日[土]14:00開演  
会場＝PLAT 主ホール  
会員先行＝6月17日[土]・一般発売＝7月2日[日]  
音楽＝J・シュトラウスⅡ世  
振付＝小倉佐知子  
監修＝牧阿佐美  
出演＝新国立劇場バレエ団

次世代を担う子どもたちが優れたバレエ芸術に触れられる機会を提供する「こどものためのバレエ劇場」です。『しらゆき姫』は、グリム童話の同名作品を元にしており、ストーリーはおとぎ話のかたちで運ばれますが、原作のグリム童話にあるように、人生や人間心理の真実も描かれています。初めてバレエを鑑賞する低年齢層の方にもわかりやすいよう工夫した構成となっております。また新国立劇場バレエ団ダンサーによって踊られる舞台は、お子様だけでなく大人の方にも十分見ごたえがあり、「バレエ鑑賞デビュー」を考えておられるご家族に自信を持ってお勧めできます。

## 「写真」 親子のためのファミリーミュージカル 「ピノキオ～または白雪姫の悲劇～」

写真：西野正将



ったのもよかったです。

中島——一つにまとめていくために

どのような言葉をよく使いますか。

棚川——説明上手ではないので、擬態みたいな擬音とかが多いですね。

ストーリーは脚本家の方に書いていただいたのを、さらに40分ぐらいに納まるようにさせていただき、本読みながら「ここ音楽入れたらいいかな」という感じでまとめています。「音を出すことはただ楽器を鳴らすわけではなく、その音で喋るということ」楽器を演奏することだけに夢中にならず、感覚を開いて、目の前でなが行われて、どの程度の音量で楽器を鳴らせばいいか、よく考えて、とはよく言っています。

中島——今回はどのあたりを  
ブラッシュアップするのですか。

棚川——灰色の男たちですね。実は灰色の人のシーンが重要です。でも、そこがとても難しいですね。

中島——棚川さんが描く灰色の男とは  
どのようなイメージですか。

棚川——簡単に言うとうそぐ怖いもの。灰色のマントと帽子を被ってみんなが同じ顔をしている。要は笑わず無表情で、喜びがない人たち。子どもからすると常にいつも怖い顔をして近付いてくる大人のような感じだと思う。大人からすると見えないプレッシャーとか、生きてくために働き、節約しなきゃいけないという存在。灰色の男がちゃんと描かれるとおもしろいんだけど、前は



棚川寛子[たなかあひろこ] / 舞台音楽家。演劇作品の音楽を作曲し、俳優への演奏指導と併せて行うスタイルで活動している。2003年、宮城聴演出ク・ナウカシアターカンパニーの『マハーバーラタ』で朝日舞台芸術賞を受賞。2014年には同作品がフランス、アヴィニョン演劇祭に正

式招聘されSPAC(静岡県舞台芸術センター)による上演で絶賛された。その他にも小学校や児童養護施設でのワークショップ等、勢力的な活動を続けている。しかし、正規の音楽教育を全く受けていない、言わばこの分野でのアウトサイダーアーティストとも言える稀有な存在である。昨年度の穂の国とよはし芸術劇場PLAT主催「市民と創造する演劇『夏の夜の夢』」では音楽を担当。

わりと急いで作ってしまったと思っています。

創作というのは、自分の考えを出さないといけない場所だから、「じゃ、このシーン考えて」「作って」「こっちやっとなら」と丸投げします。すると「えっ」となる、でも持っていないわけではないから、なんとかみんな考えを出してきます。で、おもしろかったらそのまんま使って、おもしろくなかったら、いろいろ言って「はいもう一回考えて」と、また投げます。

中島——最終的には理想とするところへ  
行ってくれるのですか。

棚川——思っていないものにはなりますけど。「あ、こんなふうになった」それでもおもしろければ良いですよ。

中島——刺激を受けてなにかを創作する、いつもそこで

考えながら動いていることが実は有意義な時間を創り上げていると思います。そして、本番40分の時間をお客さんから盗むことで、出演者は棚川さんに盗られた時間を取り返すのですね。

棚川——見えているわけではなく頭の中にはある、でも実際には立ちあがっていない見えないものを作る作業なんです。もちろん私に時間は奪われるけど、立ちあがってきたものを誰かが見ていることはとても豊かだということに気づき、本番が終わるとみんな「寂しいな」「あ、あの時間豊かだったな」と思ったりするんですよ。そう、それが「時間泥棒」。あ、まとめちゃった。



## 「10th Anniversary Tour」

『クラゲノココロ モモノパノラマ ヒダリメノヒダ』

9月8日[金]19:00開演

『〆〆〆かえりの合図、まったた食卓、をこ、きつと——』

9月9日[土]13:00開演

『あっこのはなし』

9月9日[土]18:00開演

『夜、さよなら 夜が明けないうまま、朝 Kと真夜中のほとりて』

9月10日[日]13:00開演

作・演出=藤田貴大

出演=石井亮介、尾野島慎太郎、川崎ゆり子、

中島広隆、成田亜佑美、吉田聡子/山本達久ほか

会場=PLATアートスペース

INTERVIEW:4

藤田貴大[ふじた・たかひろ]  
 / 85年生まれ北海道出身。  
 劇作家・演出家・マームとジブ  
 シー主宰。2007年桜美林大  
 学在学中にマームとジブシー  
 を旗揚げ。以降全作品の作  
 演出を担当。11年「かえりの  
 合図、まったた食卓、をこ、き  
 つと、しおふる世界。」で第56回  
 岸田國士戯曲賞を26歳で受  
 賞。13年沖繩戦に動員された  
 少女たちを描いた「cocoon」  
 (原作:今日マチ子)を上演。  
 15年に同作をリ・クリエーショ  
 ン、再演を行う。14年2月横  
 浜市文化・芸術奨励賞を受賞。  
 演劇以外の活動として、17年  
 4月に初のエッセイ集「おんな  
 のこはもりのなか」、5月に初の  
 詩集「Kと真夜中のほとりて」  
 を発表。



ところがあると考えているので、音響も照明のスタッフも何人もいますね。

そのフレキシブルさを旗揚げのときから僕は掲げていて、劇団の単位とかメンバー、この音響家以外とはやらないのは狭いというか、演劇の速度を下げることになると思う。作品ごとに劇場や空間が違うように、人も違っていい。『てんとてん』は5年もツアーして海外も回るから家族みたいになり、劇団っぽくなっているけど、別に東京芸術劇場や彩の国さいたま芸術劇場でやるチームもありますよ。

矢作——衣装と音楽、この2つが特徴的だと思っていますが。

藤田——衣装は最初は僕が買っていたのです。公演制作も自分でやっていた。小道具にしても道具にしても、音楽も僕のチョイスです。自分が気に入ったもの以外は僕の空間に置きたくなかったのだけど、ある日稽古場に行ったら衣装のスズキタカユキのアシスタントの愛ちゃんという見知らぬ女子がいた。それで、僕が最初着せていた服をめちゃめちゃ崩してリメイクした。そのときに初めて自分ではない目線が衣装に入った。それまでは自分の空間にするために必死だったのが、人の目が入ることでこんなに違うニュアンスが生まれるのだと思えた。

矢作——音楽へのこだわりはどこからきたのですか。

藤田——藤田家がテレビはだめだけど音楽は聴ける環境にあったのと、18歳までやっていた演劇がミュージカルだったから、音楽がない演劇という方が特殊だったのです。音楽に対してのリスペクトはずーっとあって、音楽みたいに演劇があればいいのにな、CDアルバムの曲を聴く感じで演劇を編集できないかなと思ってた。つまらない演劇はすぐ寝てしまうけどCDは寝ずに聴けたりする。この差は何だろう、音楽でいうグルーヴを演劇で置けないかと考えていた延長線上で、いろいろ音楽的な実験は試したのです。

矢作——この10周年のあと、この先はどこへいくのでしょうか。

藤田——とにかく2017年度は10周年のツアーをいかにいいものにしていくかということにつきるけど、今まで誰も踏み入れなかったような規模と内容、大きい時間を引き受ける作品を書いてみたい。自分の過去との折り合いを10周年でつけてから『ロミジュリ』をやって、大きい物語に挑みたいと思った。古典はやはりそういう魅力があります。

そして、これからの思いとしては、いろんなジャンルを巻き込み、服を買いに行くように劇を見に行くとか、音楽をiTunesで買うような感じで演劇も見に行く時代を作りたい。演劇を普通に見に行くようになってほしい。それを目指したいと思っています。演劇やってるやつはバンドやってるやつぐらい「かっこいい」にならないと、おもしろくないと思っています。

矢作——期待しています。

矢作——マームとジブシーの10年目のツアーはどういったところからスタートしたのですか。

藤田——僕が18歳まで過ごした町のことを描いた物語を1度ツアーという形で完結させて、11年目に向かったかったという思いと、10代のころ東京の自分と同世代の人たちはいろんな表現を見ることができているのに、僕は北海道で劇団四季とか富良野塾しか見られない。そういう思いをしながら過ごしていました。マームとジブシーと名前を付けるときも旅をしながら作品を考えることが前提にあった。東京にいない人たちも2日間で3作見られる。今回のツアーではどういう経験ができる公演形式でという思いがあります。

矢作——3部作が3つ揃ったこともこの企画がまとまる要因ですか。

藤田——一つの作品で自分のことは全部言えないと思います。モチーフは違うけど、全部で9作品ある。3部作、3部作、3部作で9作品全部が僕らの原風景や体験を元に書いていますが、一作品だけで分かってもらうというより、全部見たときに分かってもらう仕組みを作ったかった。蛭川さんの仕事を見ても、月に1回くらい公演されていたではないですか。『ハムレット』をされて小劇場もあって、次は「ゴールドシアター」で老人たちとやったりと、いろんな作品を発表し続けてこられた。だけど、どこがほんとの蛭川さんなのか分からない。全部見ないと蛭川さんとはつかめない。それは自分にも言える。

家族の話を描いている『〆〆〆』という作品では夜の時間はあまり描いてなかったな。家族の話を描きつつ夜は描いたけどそこで飼っていた猫のことは語ってなかったなと、かなり作家としての欲望のまま、ピンポイントに絞るところを絞らずに配置してみたかった。僕の周りのキャストもスタッフも超大変なツアーになるとおもいますけどね。

矢作——比較的早い段階から地方公演や海外公演に積極的だった印象があるのですが。

藤田——豊橋でのワークショップでも、演劇を一生懸命やっている人たちの表情を見ていると自分と重なる部分があります。地方で演劇をやるのが必ずしも出遅れているとは思わないし、そういう人たちがいるべきだと思う。だけど、東京にいたら演劇を観られない時間はない。どの町にも劇場があり、平日の昼間でも住んでいるところから数分のところで観られる。そういう東京へのコンプレックスはあったと思う。ツアーに行けてよかったね、ではなく、行くからには今日本で一番新しい、一番興味が持たれている表現を地方に持っていかなければ意味がない。それは、あの頃の自分に対して裏切りたくないという思いからなんです。

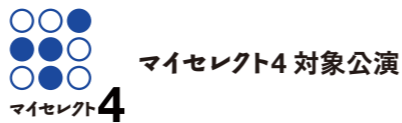
矢作——作品によっても出演者もスタッフもすごくフレキシブルですね。

藤田——劇団化はしてないけど、劇団と言われてもいい。劇団員はいませんが、劇団みたいな単位で作品ごとに動いています。例えばこの公演の舞台監督はこの人、次のツアーは別のひと、その人によって得意とする

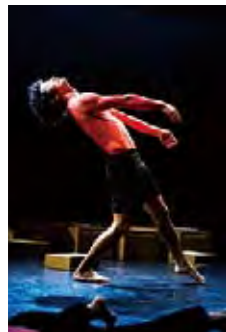
聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー  
 活動十周年を再構成した複数の作品を携えて、  
 全六都市を巡るツアーを開催。  
 作・演出  
 藤田貴大の十年。



## PLAT主催公演情報



鈴木ユキオ  
「春の祭典」Yoyesに捧ぐ」



©bozzo

プラット音楽隊「モモ」



マームとジブシー  
「10th Anniversary Tour」



『クラゲノココロ モモノパノラマ ヒドリメノヒダ』  
撮影:三田村 亮

人形浄瑠璃 文楽  
「本朝廿四孝」



## チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

- 劇場窓口・電話0532-39-3090[休館日を除く10:00-19:00]
- オンライン http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]

## U24・高校生以下割引ご案内

- 料金=U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:一律1,000円
- 購入方法=各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
- その他=本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

ナイン・テイルズ  
～九尾狐(クミホ)の物語～



宮川彬良

プラットワンコインコンサート



高柳鞠子、三浦真理子

プラットワンコインコンサート



Musica Piatto[ムジカピアット]

**6/25 [日]** 14:30開演  
平成29年度公共ホール現代ダンス活性化事業  
PLAT ダンスプログラム  
**鈴木ユキオ「春の祭典」Yoyesに捧ぐ」** **マイセレクト4**  
4月に「ダンス・レジデンス」で豊橋に滞在創作活動をおこなった鈴木ユキオによる、魂と身体を揺さぶる圧巻のデュオ作品。●振付・演出=鈴木ユキオ ●出演=鈴木ユキオ、安次嶺菜緒 ●会場=PLAT アートスペース ●料金=[全席自由・整理番号付]一般2,000円/ユース(24歳以下)1,000円

**好評販売中**  
●●●●  
●●●●  
●●●●

**7/29 [土]・30 [日]** 14:30開演  
PLAT小劇場シリーズ  
風琴工房  
**「Penalty killing remix version」**  
●脚本・演出=詩森ろは ●出演=栗野史浩、森下亮、筒井俊作ほか  
●会場=PLAT アートスペース ●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,000円ほか

**好評販売中**  
●●●●  
●●●●  
●●●●

**8/5 [土]・6 [日]** 14:30開演  
親子で一緒に楽しめる音楽劇  
**プラット音楽隊「モモ」**  
●原作=ミハエル・エンデ ●演出・音楽=棚川寛子 ●出演=プラット音楽隊 ●会場=こども未来館こども ●料金=無料 ※親子わくわくプログラム2017対象公演

**8/11 [金・祝]** 11:00開演 / 16:00開演  
人形浄瑠璃 文楽  
**「本朝廿四孝」**  
●出演=竹本津駒太夫、鶴澤清介、桐竹勘十郎ほか ●会場=PLAT 主ホール ●料金=[全席指定]一般5,000円 / ユース(24歳以下)2,500円

**好評販売中**  
●●●●  
●●●●  
●●●●

**8/25 [金]** 14:00開演  
親子のためのファミリー・ミュージカル  
**「ピノキオ～または白雪姫の悲劇～」** **好評販売中**  
●原作=カルロ・コローディ ●作曲・音楽監督=深沢桂子 ●演出・脚色=宮本亜門 ●共同演出・振付=福島桂子 ●美術=下田昌克、大島広子 ●出演=小此木まり、池田有希子ほか ●会場=PLAT 主ホール ●料金=[全席指定]おとな3,000円 / こども(高校生以下)500円ほか ※親子わくわくプログラム2017対象公演

**9/8 [金]** 19:00開演【1】  
**9/9 [土]** 13:00開演【2】 / 18:00開演【3】  
**9/10 [日]** 13:00開演【4】  
PLAT小劇場シリーズ  
マームとジブシー  
**「10th Anniversary Tour」** **好評販売中**  
【1】『クラゲノココロ モモノパノラマ ヒドリメノヒダ』  
【2】『AAA かえりの合図、まっけた食卓、そこ、きっと―――』  
【3】『あつこのはなし』  
【4】『夜、さよなら 夜が明けないま、朝 Kと真夜中のほとりて』  
●作・演出=藤田貴大 ●出演=石井亮介、尾野島慎太郎、川崎ゆり子、中島広隆、成田亜佑美、吉田聡子、山本達久ほか ●会場=PLAT アートスペース ●料金=[全席自由・整理番号付]一般3,000円ほか ●とのほか選べる2・3・4公演セット券(枚数限定、プラットチケットセンターのみ取扱い)あり

**9/10 [日]** 16:30開演  
劇団四季ファミリー・ミュージカル  
**「嵐の中の子どもたち」**  
嵐が村を襲った日、子どもたちだけの冒険がはじまる。大人が一人もない世界の中で、18人の子どもたちが繰り広げる、友情と勇気がつまった冒険物語。 ●一般発売=6月10日(土) ●会場=PLAT 主ホール ●料金=[全席指定]S席=一般5,400円、小学生以下3,240円 / A席=一般3,240円、小学生以下2,160円 ※3歳以上有料(膝上鑑賞不可)。3歳未満の膝上鑑賞無料。

**9/16 [土]** 14:00開演  
新国立劇場バレエ団  
こどものためのバレエ劇場  
**「しらゆき姫」**  
●会員先行=6月17日(土) ●一般発売=7月2日(日) ●音楽=J・シュトラウス II 世 ●振付=小倉佐知子 ●監修=牧阿佐美 ●出演=新国立劇場バレエ団 ●会場=PLAT 主ホール ●料金=[全席指定]おとな4,000円 / ユース(24歳以下)2,000円 / こども(中学生以下)1,000円 ※親子わくわくプログラム2017対象公演



「ピノキオ～または白雪姫の悲劇～」

**11/3 [金・祝]・4 [土]** 13:00開演 / 18:00開演  
**11/5 [日]** 13:00開演  
高校生と創る演劇  
**「ガンボ～思い出せば、給食は月1で南米料理だった私たちのメモリー～(仮)」**  
公募による高校生出演者とスタッフが、劇場やプロのスタッフとともに創造する演劇第4弾。今回は脚本に、市井の人々の巧みを会話劇で評判を呼ぶ青木豪、演出に、若手気鋭の文学者・稲葉賀恵を迎えた新作描き下ろしを上演します。 ●会員先行=9月2日(土) ●一般発売=9月16日(土) ●作=青木豪 ●演出=稲葉賀恵 ●出演=オーディションで選ばれた高校生 ●会場=PLAT アートスペース ●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般2,000円ほか

**11/14 [火]・15 [水]** 13:30開演 / 17:00開演  
**市川海老蔵「古典への誘い」**  
●会員先行=7月22日(土) ●一般発売=8月6日(日) ●演目=新古今劇十種の内『身替座禅』、『男伊達花廊』 ●出演=市川海老蔵、片岡市蔵、市川九團次、大谷廣松ほか ●会場=PLAT 主ホール ●料金=[全席指定]S席11,000円、A席8,000円、B席5,000円ほか

**2018/1/20 [土]** 13:00開演 / 18:00開演  
**1/21 [日]** 13:00開演  
プラット開館5周年記念事業  
穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース  
**ミュージカル「ナイン・テイルズ～九尾狐(クミホ)の物語～」**  
宮川彬良作曲による新作ミュージカルがPLATに初登場。千年を生き、九つの尾を持つ伝説の九尾狐と純粋な木こり青年の愛の物語を、ミュージカル界きっての実力俳優優陣でお贈りします。 ●会員先行=8月5日(土) ●一般発売=8月26日(土) ●原作=金是佑 ●音楽監督・作曲=宮川彬良 ●構成・演出=田尾下哲 ●振付=平山素子 ●出演=昆夏美、小野田龍之介、JKim[ジェイキム]ほか ●料金=[全席指定]S席7,000円、A席6,000円ほか

若手音楽家育成事業  
**プラットワンコインコンサート** **好評販売中**  
「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。 ●会場=PLAT アートスペース ●料金=[全席自由・整理番号付]各回500円  
**7/1 [土]** 15:00開演 Trio Katze[トリオ・カツェ]中村真帆(ヴァイオリン)、関根のぞみ(チェロ)、犬塚沙希(ピアノ)「夏の風にそよぐ想い出のメロディ」  
**7/17 [月・祝]** 15:00開演 高柳鞠子(フルート)・三浦真理子(ピアノ)「音の海を愉しむひととき」  
**8/31 [木]** 11:00開演 / 15:00開演 Musica Piatto[ムジカピアット]杉浦孝治(テノール)、兵藤雅晃(チェロ)、天野初菜(ピアノ)、川越未晴(ゲストソプラノ)「おとぎの世界へようこそ」 ※0歳より入場可能。親子わくわくプログラム2017対象公演。

**ワークショップファシリテーター養成講座2017前期**  
長期的・継続的な視点でワークショップの進行をする人材「ファシリテーター」を地域に育成する連続講座。前期では最終日の「ワークショップ縁日」に向けて、ワークショップをつくりながら進行について学んでいきます。 ●日時=7/15 [土]・7/17 [月・祝]・8/6 [日]・8/19 [土]・8/20 [日] 13:00-17:00・8/26 [土]・8/27 [日] 10:00-17:00(全7回通し) ●講師=すぎこーた、青山公美嘉、吉野さつき ●会場=PLATほか ●対象=18歳以上で、極力全日程参加できる方。演劇経験不問。 ●料金=3,000円 ●定員=20名(応募多数の場合は選考) ●申込方法=①申込書に必要事項を記入の上、窓口にて持参 FAX(0532-55-8192) ②劇場ホームページの専用申込フォームより申込

**6/23 [金]** 19:00-21:00  
**ワークショップファシリテーター養成講座2017前期**  
**キックオフ講座「つなげるしくみ、ひろげるしくみ 一穂の国とよはし芸術劇場を事例に」**  
アートを通じて劇場が地域社会とつながる可能性を過去の事例を元に考えていきます。7月から開催するファシリテーター養成講座についても説明いたします。 ●講師=吉野さつき ●会場=PLAT 創造活動室B ●対象=ワークショップに興味のある方ならどなたでも ●参加費=無料 ●定員=30名程度(申込順) ●申込方法=①プラットチケットセンター(電話0532-39-3090) ②劇場ホームページの専用申込フォームより

**8/27 [日]** 10:00-15:00(予定)  
**ワークショップ縁日**  
夏休みのさいごの日曜日は劇場であそぼう!いろいろな場所でさまざまな遊びに無料で参加できます。 ●会場=PLAT 創造活動室Aほか ●参加費=無料

**ぶらっとワークショップ**  
初めてワークショップに参加する方、少し息抜きしたい方、どんな方でも気軽にご参加頂けるワークショップです。毎回違うテーマで開催しております。 ●会場=創造活動室B ●参加費=各回500円  
**7/8 [土]** 10:30-12:30 「絵本の世界を演じてみる」進行役:山田久子 ●対象:高校生以上  
**9/2 [土]** 13:00-16:00 進行役:堀岡寿至 ●対象:高校生以上



## プラット小劇場シリーズについて

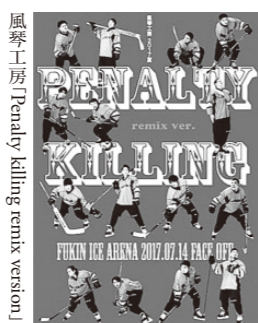
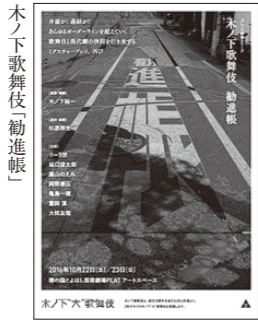
芸術文化プロデューサー 矢作勝義

小劇場だから体感できる『演劇の醍醐味』  
ぜひプラットでお試しく下さい

お陰様で、プラットが開館して無事5年目を迎えることができました。演劇を初めとする生の舞台の魅力を最大限伝えることを目標として作られた劇場は、その意図が上手く生きて、首都圏で上演された優れた本格的な演劇公演を招聘できるようになり、豊橋として東三河における観劇環境は大きく変わったと自負しています。また、プラットにはアートスペースという約200席ほどの小劇場があります。芸術文化アドバイザーの平田満さんは、設計段階から、アートスペースで演劇が上演できるようにと様々なアイデアを出し、現在の形になりました。そして柿落とし公演には、プラットオリジナルのプロデュース公演として自ら出演した「父よ!」(2013年初演、2015年再演)を上演し、好評を博しました。その後もいくつもの演劇公演を上演してきましたが、昨年からは『プラット小劇場シリーズ』を立ちあげ、劇場が自信を持ってお奨めする小劇場演劇と呼ばれる作品をお届けすることにいたしました。演劇というのは非常に幅広く多様な形態がある芸術です。首都圏では、50人も入れば一杯になるカフェやギャラリーの様な小空間や、100~150人で満席となるような小さな劇場で数多くの作品が連日上演されています。舞台上の俳優の息づかいを体感し、汗がしたたる雫を目撃し、俳優達の肉声を身体で受け止めることができるような空間で上演される作品は、上演する側だけでなく、観客も一緒に舞台を造り上げていると言っても過言ではありません。そんな小劇場空間で、新しい表現に挑戦し、時代を象徴するような優れた表現者や舞台作品が生まれてきているのです。そんな体験をお届けすることを目指してプラット小劇場シリーズを始めました。

ご紹介するのは、劇団名・公演名だけでなく、劇作家、演出家、出演者とも、ほとんどは聞いた事のない名前のもので大半だと思います。しかし、そこはプラットが自信を持ってお奨めできる作品を厳選してお届けしています。そして、似通わない様に劇団や作品を幅広くお届けするようにしています。

食べ比べや飲み比べのように、まずはお試しで色々観ていただき、自分の好みを見つけていただけたら、と思います。そのためにも、『マイセレクト4』や『セットチケット』など、お得なチケットをご用意しました。お気に入りが見つかったら、プラットにこの劇団、この作家、この俳優をもう一度観たいとリクエストしてください。皆様のご意見・ご感想を参考にしつつも、次のお奨めを常にご用意いたします。皆様のご来場をお待ちしています。



劇団テョロートケキ「治天ノ君」

水ノ下歌舞伎「勧進帳」

綾田ベンガル芝居「やんごとなき二人」

アマヤドリ 非常中の階段

風琴工房「Penalty killing remix version」



芸術文化アドバイザー

## 平田 満の ちよこつとエッセイ

### 第23回「ワークショップ」

プラットでは舞台公演やイベントのほかに、さまざまなワークショップを行っています。作家や演出家の実践的なワークショップ、ダンスやパフォーマンスなど身体表現をするもの、造形作家のアート系や演奏家などの音楽系、さらにワークショップをつくる人のためのワークショップまで多種多様です。

私もプラット開館前から毎年、「平田満&井上加奈子の表現・発見・体験ワークショップ」を開催してきました。私たちはあえて初めて参加する方、演劇未経験の方を優先して募集しています。表現するよろこび、知らない自分や感情を発見するよろこびを、できるだけたくさんの方にとともに体験してほしいと思っていますからです。

今年も男性女性、高校生から60代までの方が、市内はもちろん、岐阜や浜松からも参加してくれました。そして、「とても楽しかった」「自分じゃない自分が出た」「年齢に幅があってもみんなで楽しめるなんてスゴイ」「相手と気持ちを分かり合う大事さを感じた」などの感想をいただきました。

いつも思うことですが、参加した方お一人おひとりの表現や反応が個性的で意外で本当に面白いのです。「失敗や間違いも楽しみましょう」と前置きするのですが、やや緊張していた皆さんの表情が、進行とともに思わず笑ったり目が輝いたりして、どんどん豊かに柔らかくなっていきます。自己紹介ナシで始まるのですが、終わるときには信頼しあった仲間のようになっています。

実はこのワークショップでは、私たちの方こそ皆さんから多くのものを学び、楽しませてもらっているのです。初めて表現に触れた時のよろこび、相手と通じ合えた時のよろこびは、表現者にとって忘れてはいけない大事なものです。長いこと俳優をしているとおそろそかになりがちです。参加者の皆さんを見ると、社会的なものや評価されることから自由になって、本来の純粋な、表現する「よろこび」の大切さを思います。そしてこの「よろこび」が少しでも多くの人に広がってほしいと願います。

知識製造業  
**San-en** 三遠機材株式会社  
http://www.san-en.co.jp

有限会社 魚伊  
電話 52-5256

株式会社 竹尾建築設計事務所  
代表取締役 竹尾 誠  
豊橋事務所/豊橋市平川南町91-2 千440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332  
浜松事務所/浜松市東区流通元町13 千435-0007 Tel.053-422-3628(代)

Gallery 48 呉服町48 TEL.54-4848

グロトリアンピアノ地域特約店  
**白羽楽器 株式会社**  
電話053-464-3015

竹内産婦人科  
産婦人科 婦人科(不妊治療)  
豊橋市新本町23 電話 竹内産婦人科 52-5000

内科・消化器科・循環器科・眼科・整形外科・脳神経外科・リハビリテーション科  
**医療法人羔羊会 弥生病院**  
日本医療機能評価機構認定 渡辺のり子(東高2回生)  
千441-8106 豊橋市弥生町字東豊和96 電話(大代)48-2211

看板広告 アラキスタヂオ  
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら  
**精文館書店**  
TEL.54-2345

医療法人慈豊会  
**大島整形外科クリニック** 院長 大島 毅  
東田町井原39の7(市電赤岩口終点前) 電話62-5511(代)

ONOCOM 株式会社 オノコム

株式会社 谷山建築設計事務所  
豊橋市西羽田町183 http://taniyama-archi.com

外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科  
**伊藤医院** 伊藤之一 伊藤文二  
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間 **数きく宗**  
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製業のおいしい資格。  
**豊橋調理製菓専門学校**  
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

**豊橋銀行協会** (順不同)  
三菱東京UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行  
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行  
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

御菓子司 **若松園** 創業江戸  
餅 和菓子

気まぐれコンサート  
事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心安全な地下駐車場  
**パ-ク500** ソウの親子の看板が自印  
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科  
**塩之谷整形外科**  
院長 塩之谷 昌 副院長 塩之谷 香  
豊橋市植田町関取54 電話 0532-25-2115(代)

豊橋名産 **命あくわ**

**井上皮フ科クリニック**  
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00  
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝  
電話 0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。  
**共和印刷株式会社**  
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科  
**医療法人 大岩整形外科・皮フ科**  
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆  
書道用品専門店 **高誠堂**  
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

本の**豊川堂**  
本店54-6688番/カルミア店55-2810番/アビタ店54-6351番

煉物專家 **たけなでん**  
ココラフロント ホテルアークリッシュ 1F

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得  
**株式会社 三光製作所**  
**三光精密工業株式会社**  
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

Storyteller tells the Story  
**物語コーポレーション**

**JEANS SHOP YAMATO**  
豊橋 つつじが丘 / 豊川 千歳通り

生活にファインクオリティ  
**sala**

広告募集

## チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

電話・窓口  
**0532-39-3090**[休館日を除く10:00~19:00]  
オンライン  
**http://toyohashi-at.jp**[24時間受付・要事前登録]

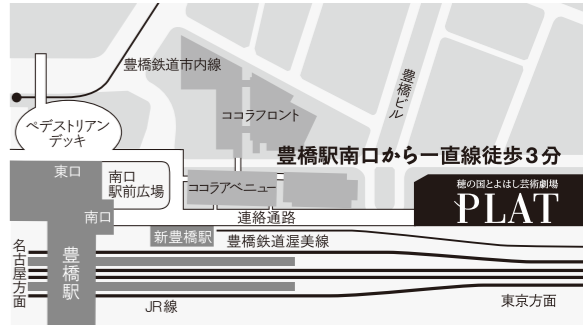


## プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料

- 特典
- 1 公演情報をメールでご案内します。
  - 2 インターネットでチケット予約ができます。
  - 3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
- ※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

## U24・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。  
料金  
U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額  
高校生以下:一律1,000円  
購入方法  
各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。  
その他  
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。  
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。



千440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地  
電話=0532-39-8810[代表]  
開館=9:00~22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。  
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。  
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、  
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。  
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、  
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

## 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT